

京都市長 門川大作 様

2019年11月6日

京都市における新施設(3施設一体化整備)の設計に係る要請

京都市3施設の合築方針を考える実行委員会
共同代表 渡邊 賢治(京都のリハビリを考える会)
栗津 浩一(きょうされん京都支部)
梶山 延子(こどもたちの保育・療育をよくする会)

謹 啓

平素より、京都市民の医療・福祉の増進に努めていただき、心より御礼申し上げます。

さて、貴市におかれましてはこの間、京都市における新施設(3施設一体化整備)の設計に係る業務を進めておられ、7月16日、8月27日の両日には、ワークショップを開催されました。私どもの会にもご案内を頂戴し、ワークショップ参加者の派遣、ならびに複数の傍聴者を組織してまいりました。

私たちは、従来から主張しているとおり、3施設の一体化自体、再検討すべきとの立場ですが、ワークショップの席上、整備事業の概要説明がなされ、私たち市民は初めて、御前松原に建設予定である一体化施設の設計イメージをパワーポイントによるスライドにて知ることとなりました。つきましては、ワークショップの際にも、直接意見を表明したところですが、あらためて実行委員会として、意見をとりまとめました。

今後の検討に役立てていただけたら幸いです。

謹 白

記

1. 交流ゾーンの必要性について

設計イメージには「交流ゾーン」が示され、ワークショップでも交流ゾーンの内容についての意見交換がなされました。しかし、交流ゾーンとは誰と誰が交流する空間と想定されているのか不明です。一体化施設は虐待対応・発達支援・リハビリテーション・精神障害のある人たちへの支援等、機微性・個別性の高い事業を担う施設であるはずです。たとえば地域住民が自由に入出入りし、利用者との「交流」をイメージしているのだとしたら、想定される当事者の置かれた状態への理解が不足しているのではないのでしょうか。あるいは、利用者同士の交流だとすれば、果たしてそのようなことがどのような見地から必要だといえるのでしょうか。交流ゾーンは不要であり、そればかりか、事業運営に悪影響をもたらす恐れすらあると考えますが、いかがでしょうか。

2. 駐車スペースについて

実際の設計図を見ることができないため正確には判断が付きかねますが、駐車場スペースが狭く、止められる台数が施設の機能に対して少ないのではないのでしょうか。また、特別に「思いや

り駐車場」が確保されるようですが、施設の性格上すべての駐車スペースについて、あらゆる障害に対する配慮がなされたものにすべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

3. 総合受付の必要性について

3施設はそれぞれ、独立した入口が設けられるものと見受けられるため、総合受付は不要ではないでしょうか。3施設共同の事務室はともかく、むしろ児童福祉センターを訪れる子どもたち・保護者と、他施設の利用者が出会ってしまうような場所が出来ることによる当事者の心理的ハードルにつながる可能性があるものと考えますが、いかがでしょうか。。

4. バリアフリー等について

バリアフリーやユニバーサルデザインは当然のことです。点字ブロック、手話通訳者の常駐は必須だと考えます。

5. 防災・避難に対する懸念について

設計イメージを見ると、4階、5階に地域リハビリテーション推進センター関連施設が集められています。身体に障害のある人たちの利用する施設が、最上階に固まっているのはなぜでしょうか。火災時の避難方法などを懸念いたします。さらに、災害時に必要となるスタッフの多くが主に1Fの総合受付周辺で執務しているとすれば、益々不安ですが、いかがでしょうか。

6. 福祉避難所としての機能について

新施設は、福祉避難所に指定されるのでしょうか。公立施設であり、必要な機能を有するよう、設計段階から指定を想定すべきと考えますがいかがでしょうか。

以 上